vinetur

インド、バルクのスコッチに実質162.5%の課税 英との貿易協定で初の対立深まる

当局はスコッチ濃縮品を関税率150%の区分に分類。輸入業者は遅延貨物の引き取りに銀行保証を求められている

2026年11月18日（水）



ロイターが取材した事情に詳しい8人の関係者と、同社が確認した政府文書によると、インドはバルクで輸入されるスコッチウイスキーに実質162.5%の関税・税負担を課している。7月15日に発効したインド・英国貿易協定の下で大幅な関税引き下げを見込んでいた酒類企業にとって、これは痛手となる。

新たな負担は貿易協定発効前に適用されていた150%を上回り、ロイターが協定に関連する初の大きな対立と報じた問題に発展した。協定ではスコッチの関税が75%に引き下げられた。英国政府や大手酒類企業は、これを輸出業者にとって大きな成果と位置づけていた。ペルノ・リカールやディアジオなどは、スコッチをバルクでインドに輸出し、現地でブレンドして同国の大衆向け蒸留酒市

場で販売している。

対立の焦点は、インド当局が一部の輸入スコッチ濃縮品をどう分類するかだ。インドの調査当局は、これらの製品が誤った税関分類で輸入されており、代わりに5月に新設された「複合アルコール調製品」の関税品目に該当すると主張している。この区分の関税率は150％。政府文書と、業界幹部や通関業者を含む8人の関係者によると、現地の消費税を加えると税負担は合計162.5％となる。

この対立が影響を及ぼす市場は、規模の面でも特異だ。インドの酒類市場は約650億ドルと評価され、スコッチの販売量では世界最大の市場である。英国からインドに出荷されるスコッチの約80％は、瓶詰めではなくバルクで届く。その多くは、少量のスコッチを他の蒸留酒とブレンドして「インド製外国酒（IMFL）」のウイスキーを造るために使われる。こうした製品は、シーバスリーガルやジョニーウォーカーなどの輸入ブランドよりはるかに低価格で販売される。

そのため、この問題は貿易政策にとどまらない重要性を持つ。バルクのスコッチはインドのウイスキー事業の広い範囲を支える主要な原料であり、税負担の増加は大きな成長市場での調達コストを押し上げ、輸入業者や現地生産者の資金繰りを圧迫する可能性がある。出荷の遅延が続けば、生産計画も難しくなる。

ロイターは11月11日、対立が長引くなか、ペルノ、ディアジオ、バカルディが所有する80を超える輸送コンテナに積まれた数千リットルのバルクスコッチが、インドの港で差し止められていると報じた。調査の継続中に暫定的に貨物の引き渡しを受ける手続きでは、企業は商品の価値の75％に相当する関税を前払いし、残額を銀行保証で担保しなければならないと、関係者は述べた。

関係者3人がロイターに語ったところによると、ペルノとディアジオは差し止められたコンテナの引き取りを確保し、事業を継続するため、銀行保証やその他の資金調達の手配を始めている。バカルディは次の対応を検討中だった。ディアジオはコメントを控え、ペルノとバカルディはコメント要請に応じなかった。インド財務省と税務当局も回答しなかった。

業界幹部によると、資金面の圧力はすでに顕在化している。貿易協定の発効後、一部のスコッチ製品の小売価格をすでに引き下げていた酒類輸入業者の関係者1人は、企業は今、想定を上回る税負担に直面していると述べた。別のインド企業幹部は、生産の維持が極めて重要であるため、企業にとって暫定的な貨物引き取りを求める以外に選択肢はほとんどないと語った。一方で、銀行保証は運転資金への負担を増す。

中小企業では圧力がさらに強まる可能性がある。ロイターによると、ムンバイ上場のRadico Khaitan、Allied Blenders and Distillers、Tilaknagar Industriesもバルクのスコッチを輸入しており、多国籍企業とともに調査対象となっている。融資機関が担保を求めることがあるため、中小の輸入業者は保証の手配がより難しい可能性がある。また、保証は偶発債務として開示する必要もある。

この対立は、インドの関税・税関制度をめぐる外国投資家の幅広い懸念に拍車をかけている。ロイターは、長期化した関税紛争が過去にフォルクスワーゲンやサムスンなどの企業に影響を及ぼしたと指摘した。インド当局は国内法を執行していると説明しているが、当局による輸入品の分類方法に企業が不意を突かれることが多いと、経営幹部らは不満を示している。

ウイスキー関税は、インドと英国の貿易交渉で最も難航した論点の一つだっただけに、今回の問題

は特に敏感なものとなっている。両国は協定が7月15日に発効するまで、何年にもわたって交渉を続けた。英国は、この合意がウイスキーを含む「英国を代表する製品」に恩恵をもたらすと主張していた。スコッチ・ウイスキー協会は、この協定によりインド向けスコッチ輸出が5年間で13億4000万ドル増加する可能性があるとしている。

英国は問題の解決に向けてニューデリーと協議を続けていると繰り返し述べ、インド当局は対立が近く解決するとしている。しかし、ロイターが11月11日に報じたインドの調査当局による非公開メモは、貿易協定に基づく誤分類は「政府の歳入に重大な影響」を及ぼすため、停止しなければならないとしていた。

業界関係者はロイターに対し、税関分類が議論の対象になっていることはすでに把握していたものの、関税に加えて現地税まで課されるとは予想していなかったと語った。両方が重なった結果、関税引き下げを目的としたはずの貿易協定は、世界有数のウイスキー市場に安定的にバルク品を供給する業界に、新たな不確実性をもたらしている。